

## 第2回円空大賞円空賞

### 戸谷成雄（とやしげお）

#### プロフィール

- 1947年：長野県に生まれる  
1973年：愛知県立美術大学彫刻科卒業  
1975年：同大学院彫刻専攻科修了  
1988年：「ヴェネチア・ビエンナーレ」（ヴェネチア／イタリア）  
1991年：「プライマルスピリット」（ハラミュージアムアーク、渋谷、アメリカ、カナダ各地を巡回）  
「今日の造形7～現代美術＜日本の心＞」展（岐阜県美術館）  
1993年：「第1回アジアパシフィック・トリエンナーレ」（クイーンズランドアートギャラリー／オーストラリア）  
「インヴィシブルネイチャー」（ルードヴィッヒフォーラム／ドイツなどチェコ、ハンガリーを巡回）  
1995年：「視線の森—戸谷成雄」（広島市現代美術館）  
「ジャパン・トゥデイ」（ルイジアナ美術館／デンマークなど北欧を巡回）  
「日本の現代美術：1985-1995」（東京都現代美術館）  
1997年：「モン・ド・マルサン現代日本の彫刻」（モン・ド・マルサン／フランス）  
「日本の現代美術」（韓国国立現代美術館／ソウル）  
「第9回インドトリエンナーレ」（ラリットカラアカデミー／ニューデリー）  
1998年：「アート／生態系—美術表現の『自然』と『制作』」（宇都宮美術館／栃木）  
1999年：「開館30周年記念展：森に生きるかたち」（彫刻の森美術館／箱根）  
2000年：「人間＋空間」第3回光州ビエンナーレ（韓国）  
2001年：「生きる」（クレラーミュージアム美術館／オランダ）  
「戸谷成雄—さまよう森」（国立芸術センター／青森）  
2002年：「未完の世紀：20世紀美術がのこすもの」（東京国立近代美術館）



#### 受賞理由

戸谷成雄氏の仕事もやはり木を材料にしているが、最近、テーマは森に絞られているようである。氏はまっすぐな木に実にいろいろな切り込みを入れて、実に多くの奇怪な柱を作る。おそらくそれぞれの木の生命力をその切り込みによって示そうとするのであろうが、そのような怪奇な柱が林立している様は、荒れ果てている日本の森の悲しみを表現しているように思われる。

この一連の森の作品は、まさに死のうとする森を愛する氏の日本の挽歌でもあろう。



「森 VIII」  
撮影／shigeoANZAI  
協力／ケンジタキギャラリー



「《境界》からV」(FrontView)  
撮影／成田弘  
協力／ケンジタキギャラリー



「《境界》からV」(BackView)  
撮影／成田弘  
協力／ケンジタキギャラリー